



Infor LN 調達 購買マスターデータ ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	procpurmasdatug (U9817)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
調達.....	7
第2章 品目データ.....	9
品目購買データ.....	9
品目グループの品目購買データとデフォルト品目購買データの指定.....	9
購買品目 360.....	10
品目 - 購買取引先データの指定.....	10
発注先 360.....	10
ソーシング.....	10
承認済発注先リスト.....	10
リードタイムと日付の計算.....	11
購買品目リードタイムの計算.....	11
計画在庫日の決定.....	14
供給時間のみに基づく計画在庫日の設定.....	18
ソーシング.....	20
ソーシング.....	20
優先順位の使用.....	20
ソーシング率を使用するには.....	20
製造元の品目.....	22
製造元の品目の購買.....	22
MPN 品目の設定および使用.....	23
複数製造元品目の設定と使用.....	26
複数製造元品目の MPN 品目への変換.....	27
第3章 組織データ.....	31
購買組織データ.....	31
購買オーダータイプの指定.....	31
購買オフィスの指定.....	32
ユーザプロファイルの指定.....	32
承認ルールの指定.....	32

フレキシブルな購買オーダー処理.....	32
購買オーダー状況とフレキシブルな購買オーダー処理.....	35
承認ルール.....	36
デフォルトの購買オフィス.....	36
レート換算基準.....	38
調達のレート換算基準.....	38
第4章 一般データ.....	43
一般購買データ.....	43
追加コストセットの指定.....	43
承認者リストの設定.....	43
オーダー変更の追跡および変更理由の判断に使用するデータの指定.....	43
購買オーダーの追加コスト.....	44
追加コスト品目の請求の指定.....	44
オーダーの変更/確認.....	45
変更オーダーパラメータ.....	45
オーダーの変更および確認.....	46
変更の出力.....	48
EDI と新規ラインまたは変更の出力.....	48
付録A 用語集.....	49
索引	

文書情報

この文書では、調達のマスタデータを設定する手順を説明します。このマスタデータには、購買品目データの定義、関連する組織データと一般データが含まれます。

前提とする知識

このガイドを読む上で、LN ソフトウェアに関する詳細な知識は不要ですが、Infor LN の機能の一般知識があるとこのガイドの理解に役立ちます。

本書の概要

次の表にこのガイドの各章を示します。

章番号	章タイトル	内容
第 1 章	概要	調達の概要
第 2 章	品目データ	購買品目および品目関連データの設定
第 3 章	組織データ	オーダタイプ、購買オフィス、ユーザプロファイルなどの購買組織データの設定
第 4 章	一般データ	承認者リスト、変更コード、追加コストセットなどの一般購買データの設定

参照

このガイドは、購買マスタデータの第 1 の参照先として使用します。このガイドで説明されていない情報を調べるには、次の関連参照先の最新版を使用してください。

- 購買と販売スケジュールユーザガイド U9541 JA
購買スケジュールマスタデータを含む、購買スケジュール手順を理解するために使用します。
- 製品カタログユーザガイド U9815 JA
製品カタログの設定および使用を理解するために使用します。
- 輸入仕入原価ユーザガイド U9675 JA
輸入仕入原価の設定および使用を理解するために使用します。
- 購買要求ユーザガイド U9820 JA
購買要求マスタデータを含む、購買要求手順を理解するために使用します。
- 見積依頼 (RFQ) ユーザガイド U9821 JA
見積依頼手順を理解するために使用します。
- 購買オーダユーザガイド U9824 JA
購買オーダ手順を理解するために使用します。
- 購買と販売スケジュールユーザガイド U9822 JA
購買契約手順を理解するために使用します。
- 購買業者評価ユーザガイド U9823 JA
購買業者評価を理解するために使用します。

- 統計ユーザガイド U9816 JA
統計手順を理解するために使用します。
- 外注ユーザガイド U9361 JA
外注機能を理解するために使用します。
- 予算管理ユーザガイド U9655 JA
予算管理機能を理解するために使用します。
- 価格設定ユーザガイド U9179 JA
価格設定機能を理解するために使用します。
- 資材価格設定ユーザガイド U9865 JA
資材価格設定機能を理解するために使用します。

本書の使い方

本書はオンラインヘルプのトピックを集めてまとめたものです。そのため、以下の例のようにその他のセクションへの参照が示してあります。

詳細は、「概要」を参照してください。参照セクションを見つけるには、本書の目次または巻末の索引を参照してください。

下線の付いた用語は、用語集の定義へのリンクが付いていることを示しています。本書をオンラインで表示する場合は、下線の付いた用語をクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義に移動します。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。まずようお願いいたします。

調達

調達を使用して、購買活動を管理し、これらの活動の結果得られたデータをメンテナンスできます。

調達機能には、商品の購買を (部分的に) 管理するいくつかの機能手順が組み込まれています。主な購買手順は購買オーダー手順です。ほとんどの場合、購買オーダー手順は独立した手順として機能せず、前後に他の手順が実行されます。

購買オーダー手順の前に行う手順は、次のとおりです。

- 購買要求手順
- 見積依頼 (RFQ) 手順
- 購買契約手順

購買スケジュール手順は、購買オーダー手順と並行して実行されます。

販売業者評価手順は購買オーダー手順の後に行われます。

調達には次のメインデータが含まれます。

- 購買マスターデータ
- 購買要求
- 購買見積依頼
- 購買オーダー
- 購買契約
- 購買スケジュール
- 購買業者評価
- 統計
- 購買パラメータ

品目購買データ

マスターデータの品目基準データの一般レベルに、品目および品目データを定義できます。購入手順を実行するには、事前に調達の商品目購買データに購買関連品目データも指定します。

品目グループの商品目購買データとデフォルト品目購買データの指定

品目 (tcibd0501m000) セッションで品目を指定した後、品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで購買固有の品目データを指定できます。購買品目を指定する際には、情報を多く入力する必要があります。必要なデータ入力の量を減らすために、品目 - 購買デフォルト (tdipu0102m000) セッションで、品目グループに属している購買品目のデフォルトを指定できます。

品目購買デフォルトおよび購買品目を指定するには

1. 品目グループ (tcmcs0123m000) セッションで品目グループを指定します。
2. 品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションで、品目 - 一般デフォルトを指定します。ここでは、品目グループ (tcmcs0123m000) セッションで事前に定義した [品目グループ] を入力します。
3. 品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションで [品目購買データ] をクリックします。品目 - 購買デフォルト (tdipu0102m000) セッションが開始されます。このセッションでは、[品目タイプ] と [品目グループ] の組合せについて品目 - 購買デフォルトを指定できます。
4. 品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションで事前に定義した [品目タイプ] と [品目グループ] の組合せの品目を品目 (tcibd0501m000) セッションに指定します。品目 - デフォルト (tcibd0102m000) セッションのデフォルト値が品目 (tcibd0501m000) セッションに挿入されます。
5. 品目 (tcibd0501m000) セッションで [品目購買データ] をクリックします。品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションが開始されます。このセッションでは、品目 (tcibd0501m000) セッションで作成した品目の購買データを入力できます。品目 - 購買デフォルト (tdipu0102m000) セッションのデフォルト値が品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションに挿入されます。

備考

購買品目の処理を生成するには、品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションでオーダ処理関連の品目データを指定し、品目 - 原価計算 (ticpr0107m000) セッションで原価計算関連の品目データを計算する必要があります。

購買品目 360

品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで [購買担当] フィールドに入力した場合、購買品目 360 (tdipu0103m000) セッションを使用して、特定の購買担当に関連するすべての品目を表示できます。購買品目 360 (tdipu0103m000) セッションでは、品目データの概要をすばやく確認したり、品目関連データと購買関連データを簡単に入手したりすることができます。

購買品目 360 (tdipu0103m000) セッションは次の目的で使用できます。

- 品目関連データを表示、メンテナンス、および作成する
- 購買オーダ、購買契約、見積依頼、購買スケジュールなど、品目の購買データを表示、メンテナンス、および作成する
- 複数の品目関連タスクを容易に実行する
- 複数の品目関連グラフを表示する

品目 - 購買取引先データの指定

購買取引先固有の情報を品目ごとに指定するには、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションを使用します。この情報を使用して、購買取引先からオーダを購買および入庫する方法を決定できます。品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションには、購買オーダに必要な購買取引先のデフォルトのロジスティックデータがあります。購買取引先が内部取引先の場合、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションには、購買スケジュールと購買発行のデフォルトロジスティックデータも保持されます。購買取引先が外部取引先の場合、購買スケジュールまたは購買発行のロジスティックデータは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションから取得されます。

発注先 360

発注先 360 (tdsmi1501m000) セッションを使用すると、購買元取引先関連のデータの表示、メンテナンス、および作成、さらに特定の購買担当に関するすべての取引先の表示ができます。発注先 360 (tdsmi1501m000) セッションでは、購買元取引先情報の概要が表示され、購買元取引先関連のデータを簡単に確認できます。

ソーシング

各種取引先から同一品目が納入される場合、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで優先順位およびソーシング率を取引先に割り当てることができます。詳細は、次の情報を参照してください: [ソーシング](#) (ページ 20)

承認済発注先リスト

承認済発注先リスト (tdipu0110m200) セッションを使用して、承認済発注先リストを表示できます。

品目 - 購買 (tdipu0601m000) セッションの [承認済販売業者からの購買のみ] チェックボックスで、品目の納入を承認する発注先を指定します。

リードタイムと日付の計算

購買品目リードタイムの計算

購買品目および取引先の組合せについて複数のリードタイムを指定および計算できます。

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションおよび購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッション:

- 計算されたリードタイムが [計算リードタイム (日数)] フィールドに表示されます。
- 計算された完全リードタイムが [計算済完全リードタイム (日数)] フィールドに表示されます。

(完全) リードタイムの計算

ステップ 1: 1 日の平均利用可能時間の計算

(完全) リードタイムを計算するため、まず購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [デフォルトの利用性タイプ] フィールドで指定される 利用性タイプ の 標準カレンダー に基づいて、各稼働日の平均利用可能時間数が決定されます。

各利用可能日の平均利用可能時間を計算するために、次の手順が実行されます。

1. 開始時間と終了時間に基づいて利用可能日の利用可能時間が決定されます。
2. 各日の利用可能時間の合計によって週あたりの合計利用可能時間が計算されます。
3. 週あたりの合計利用可能時間が週あたりの利用可能日数で除算されます。この結果が、利用可能日の平均利用可能時間になります。

ステップ 2: 時間単位でのリードタイムの計算

各利用可能日の平均利用可能時間によってリードタイム構成要素が時間に変換され、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの次のリードタイム構成要素を合計してリードタイムが計算されます。

- 内部処理時間
- 安全時間
- 供給時間または完全供給時間
- [輸送時間(日数)]

輸送時間は、次の方法のいずれかで取得されます。

- 輸送は、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0500m000) セッションで定義でき、これが実装されている場合、輸送時間の計算は 運送業者 と 経路 に基づきます。経路計画と サービスレベル は、この時点では不明です。

輸送時間は次の手順で取得されます。

- a. 経路、運送業者、発送元住所、および目的地住所がわかっている場合、最初に経路、運送業者、住所に一致する経路計画が検索され、次に標準経路が検索されます。
 - b. 一致する経路計画または標準経路が複数検出された場合、輸送手段グループが運送業者の輸送手段グループに一致する経路計画または標準経路が選択されます。
 - c. 引き続き複数の経路計画または標準経路が検出された場合は、標準経路より経路計画の方が優先されます。標準経路だけが検出された場合は、輸送計画パラメータ (fmlbd0100m000) セッションの [運送業者/LSP 選択基準] パラメータの設定に従って標準経路が選択されます。
 - d. さらに複数の経路計画が検出された場合は、データベースに最初に現れる経路計画が選択されます。
- 輸送が実装されていない場合は、都市別距離テーブル (tccom4137s000) セッションまたは郵便番号別距離テーブル (tccom4138s000) セッションからの関連する距離テーブル (利用可能な場合) に基づいて、出荷元取引先の住所と入庫倉庫の住所との間の輸送時間が取得されます。これらのセッションのどちらから輸送時間を取得するかは、COM パラメータ (tccom0000s000) セッションの [距離テーブルの使用] フィールドの値によって変わります。

ステップ 3: 日数単位でのリードタイムの計算

利用可能日の平均利用可能時間によって、計算済リードタイムが時間から日数に変換されます。1 日に満たない端数が残っている場合、この端数は丸められて 1 日にされます。このため、計算リードタイムは必ず丸 1 日の日数で表されます。

例

例 - 購買利用性タイプ

購買利用性タイプは PURAT です。利用性タイプ PURAT の標準カレンダーは次のようになります。

曜日	利用可能	開始時間	終了時間	利用可能時間
月曜日	あり	8:30:00	16:30:00	8
火曜日	あり	8:00:00	16:00:00	8
水曜日	あり	9:00:00	16:30:00	7.5
木曜日	あり	8:00:00	16:30:00	8.5
金曜日	あり	8:00:00	16:00:00	8

上記の標準カレンダーに基づくと、毎週合計で 40 時間が利用可能です。各利用可能日の利用可能時間は平均で 8 時間です。これは、毎週 40 時間、日数で 5 日間利用できることになります。

各利用可能日の8時間の平均利用可能時間によって、次のリードタイム構成要素が時間単位のリードタイムに変換されます。

リードタイム構成要素	リードタイム	時間によるリードタイム
内部処理時間	6 時間	6 時間
安全時間	6 時間	6 時間
(完全) 供給時間	1 日	8 時間

注意

[輸送時間(日数)] は、購買利用性タイプの代わりに、COMパラメータ (tccom0000s000) セッションに入力されている [商品輸送の利用性タイプ] を使用して変換されます。

例 - 商品輸送の利用性タイプ

[商品輸送の利用性タイプ] は EXPO です。利用性タイプ EXPO の標準カレンダーは次のようになります。

曜日	利用可能	開始時間	終了時間	利用可能時間
月曜日	あり	8:00:00	17:00:00	9
火曜日	あり	8:00:00	17:00:00	9
水曜日	あり	9:00:00	17:30:00	8,5
木曜日	あり	8:00:00	17:30:00	9.5
金曜日	あり	8:00:00	17:00:00	9

上記の標準カレンダーに基づくと、毎週合計で45時間が利用可能です。各利用可能日の利用可能時間は平均で9時間です。これは、毎週45時間、日数で5日間利用できることになります。

各利用可能日の9時間の平均利用可能時間によって、[輸送時間(日数)] が時間単位のリードタイムに変換されます。

リードタイム構成要素	リードタイム	時間によるリードタイム
輸送時間	2 日	18 時間

[内部処理時間]、[安全時間]、および [供給時間] の合計は20時間です。日数に変換すると、合計リードタイム時間の20時間を利用可能日の平均利用可能時間の8時間で除算して、2.5日にな

ります。計算リードタイムは必ず丸 1 日の日数で表されるため、リードタイムが 3 日に丸められます [輸送時間(日数)] は 18 時間です。日数に変換すると、合計リードタイム時間の 18 時間を利用可能日の平均利用可能時間の 9 時間で除算して、2 日になります。この結果、[計算リードタイム (日数)] は 5 になります。

注意

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションを開いたり閉じたりするたびに、リードタイムが (再) 計算されます。

計画在庫日の決定

購買オーダーラインまたは購買スケジュールラインを入力する場合は、計画在庫日も計算する必要があります。計画在庫日は、オーダー日付または生成日、品目リードタイム、およびその範囲に基づいて計算されます。範囲に応じて、計画在庫日は正確に決定されることもあれば、幅を持たせて決定されることもあります。

注意

品目リードタイムは、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションおよび購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションで指定できます。

範囲は、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [リードタイム枠 (日数)] フィールドから計算されます。

計画在庫日を計算するには、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションまたは購買スケジュールライン (tdpur3111m000) セッションで [計算] を選択します。これらのセッションの [計画在庫日] フィールドに格納された計画在庫日が LN に表示されます。

範囲の決定

現在の日時にリードタイム範囲を追加し、購買の 利用性タイプ のリンク先となる会社のカレンダーを考慮することで範囲が決定されます。オーダー/生成日がこの範囲と比較され、次のいずれかの結果になります。

- オーダー/生成日が範囲を過ぎている。そのため、計画在庫日は幅を持たせて決定されます。
- オーダー/生成日が範囲内である。そのため、計画在庫日は幅を持たせて決定されます。

注意

- リードタイム枠は必ず日数で示されます。
- 会社カレンダーは、会社 (tcomm1170m000) セッションで会社にリンクされているカレンダーです。

例: 範囲の決定

現在の日時: 3 月 10 日水曜日 15:00:00

購買管理の利用性タイプの会社カレンダーでは、開始時間が 8:00:00、終了時間が 16:00:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。

リードタイム枠 (日): 10

水曜日には 1 時間利用可能なので、水曜日は 1 日に考えられます。このため、最初の週では 3 日間利用可能です。次の週では、5 日間利用可能です。このため、あとの 2 日は第 3 週目に残されます。3 月 23 日火曜日に利用可能時間があるため、この日が丸 1 日として考慮されます。そして、最後の利用可能時間が計画入庫日とみなされます。つまり、計画入庫日は 3 月 23 日火曜日 16:00:00 になります。

オーダー/生成日が範囲を過ぎている場合

オーダー日付が範囲を過ぎている場合、購買オーダー/スケジュールは予測需要とみなされます。予測需要では、計画入庫日を正確に決定する必要はありません。

計画入庫日は、会社カレンダーに従って次のように決定されます。

オーダー/生成日 + 計算リードタイム

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [計算リードタイム (日数)] フィールドから計算リードタイムが取得されます。

注意

- 計算リードタイムは必ず日数で示されます。
- 会社カレンダーの開始日の前と会社カレンダーの終了日の後には、1 週間の労働時間が使用されます。

例: オーダー/生成日が範囲を過ぎている場合

オーダー/生成日: 3 月 25 日木曜日 17:00:00

計算リードタイム (日数): 5

購買の利用性タイプの会社カレンダーでは、開始時間が 8:00:00、終了時間が 16:00:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。

3 月 25 日木曜日 17:00:00 はカレンダーに従うと利用可能な日付/時間ではないため、計算リードタイムを追加する最初の利用可能な日付/時間が検索されます。この場合、26 日金曜日 8:00:00

になります。その後の4日間は次の週に残されます。4日目の4月1日木曜日には利用可能な時間があるため、この日が丸1日として考慮されます。最後の利用可能時間が計画入庫日とみなされます。このため、計画入庫日は4月1日木曜日 16:00:00 になります。

オーダー/生成日が範囲内である場合

オーダー/生成日が範囲内である場合、購買オーダー/スケジュールは即時需要とみなされます。即時需要には、計画入庫日の正確な決定が要求されます。このため、計画入庫日の決定では、各リードタイム構成要素の関連するカレンダーが考慮されながら、リードタイム構成要素が合計されます。

計画入庫日は次のように決定されます。

オーダー/生成日 + 内部処理時間 + 供給時間 + 輸送時間 + 安全時間

オーダー/生成日とリードタイム構成要素が次のように取得されます。

- オーダー日付: 購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションの [オーダー日付] フィールド
- 生成日: 購買スケジュール (tdpur3110m000) セッションの [生成日] フィールド
- 内部処理時間: 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [内部処理時間] フィールド
- 安全時間: 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [安全時間] フィールド
- 供給時間: 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [供給時間] フィールド
- 輸送時間: 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションまたは購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションの [輸送時間(日数)] フィールド

カレンダー検索パス

計画入庫日を決定する際には、リードタイム構成要素に関連するカレンダーも考慮されます。リードタイム構成要素に関連するカレンダーは、次のように検索されます。

1. 内部処理時間
品目と購買元取引先の組合せに購買オフィスが指定されており、その購買オフィスにカレンダーが指定されている場合、購買オフィスのカレンダーが考慮されます。購買オフィスのカレンダーは、部署 (tcpcs0565m000) セッションで指定できます。
2. 購買オフィスにカレンダーが指定されていない場合、または購買オフィスが指定されていない場合は、会社カレンダーが考慮されます。
1. 供給時間
出荷元取引先が指定されており、その出荷元取引先にカレンダーが指定されている場合は、出荷元取引先のカレンダーが考慮されます。
2. 出荷元取引先カレンダーが利用できない場合は、購買元取引先のカレンダーが考慮されます。
3. 購買元取引先のカレンダーが利用できない場合は、会社のカレンダーが考慮されます。
1. 輸送時間
運送業者が指定されており、購買元取引先がその運送業者にリンクされている場合に、購買元取引先のカレンダーが指定されていれば、購買元取引先のカレンダーが考慮されます。

2. 運送業者が指定されており、購買元取引先がその運送業者にリンクされている場合に、購買元取引先のカレンダーが指定されていなければ、会社カレンダーが考慮されます。
 3. 運送業者が指定されているが、購買元取引先が運送業者にリンクされていない場合は、会社カレンダーが考慮されます。
 4. 運送業者が指定されていない場合は、会社カレンダーが考慮されます。
1. 安全時間
出荷元取引先が指定されており、その出荷元取引先にカレンダーが指定されている場合は、出荷元取引先のカレンダーが考慮されます。
 2. 出荷元取引先カレンダーが利用できない場合は、購買元取引先のカレンダーが考慮されます。
 3. 購買元取引先のカレンダーが利用できない場合は、会社のカレンダーが考慮されます。

次に基づいて実際のカレンダーが検索されます。

- リードタイム構成要素に関連付けられているカレンダー
- 購買の利用性タイプ
- 商品輸送の利用性タイプ
- カレンダーの開始日と終了日

注意

- リードタイム構成要素は、時間と日数で示されます。
- 購買の利用性タイプは、購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションで指定できます。
- 商品輸送の利用性タイプは、COM パラメータ (tccom0000s000) セッションの [商品輸送の利用性タイプ] フィールドで指定できます。
- 適用されるカレンダーの開始日前およびカレンダーの終了日後には、標準カレンダーが使用されます。

例: オーダ/生成日が範囲内または範囲より前にある場合

オーダ/生成日:	3 月 12 日金曜日 7:00:00
内部処理時間 (時間):	6
供給時間 (日):	1
輸送時間 (日):	2
安全時間 (時間):	4

購買の利用性タイプおよび [商品輸送の利用性タイプ] の会社カレンダーでは、開始時間が 8:00:00、終了時間が 16:00:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。購買の利用性タイプおよび [商品輸送の利用性タイプ] の購買元取引先のカレンダーは、開始時間が 8:30:00、終了時間が 16:30:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。購買の利用性タイプの出荷元取引先のカレンダーは、開始時間が 9:00:00、終了時間が 17:00:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。

計画入庫日は次のように決定されます。

1. 会社カレンダーが考慮されながら、内部処理時間がオーダー/生成日に加算されます。3月12日金曜日 7:00:00 は、会社カレンダーでは利用可能な日付/時間ではないため、内部処理時間を加算する最初の利用可能な日付/時間が検索されます。この場合、3月12日金曜日 8:00:00 になります。
2. 内部処理時間が、3月12日金曜日 8:00:00 に加算されます。この結果、入庫日の日付/時間は3月12日金曜日 14:00:00 になります。
3. 会社カレンダーが考慮されながら、供給時間が3月12日金曜日 14:00:00 に加算されます。3月12日金曜日は、会社カレンダーに従うと2時間残っています。例: 供給時間は日で示されるため、3月12日金曜日は丸1日として考慮されます。このため、入庫日の日付/時間は3月12日金曜日 16:00:00 になります。
4. 購買元取引先のカレンダーが考慮されながら、輸送時間が3月12日金曜日 16:00:00 に加算されます。3月12日金曜日は、購買元取引先のカレンダーに従うと30分残っています。輸送時間は日で示されるため、3月12日金曜日は丸1日分として考慮されます。2回目の輸送日は、3月12日金曜日以後で最初に利用可能な日です。この例では3月15日月曜日になります。このため、入庫日の日付/時間は3月15日月曜日 16:30:00 になります。
5. 出荷元取引先のカレンダーが考慮されながら、安全時間が3月15日月曜日 16:30:00 に加算されます。3月15日月曜日は、出荷元取引先のカレンダーに従うと30分残っています。残りの3.5時間は3月16日火曜日 9:00:00 に加算されます。このため、計画入庫日の日付/時間は3月16日火曜日 12:30:00 になります。

注意

購買オーダーラインが入力されたが、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで品目のデータが指定されていない場合は、品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの供給時間のみを使用して計画入庫日が決定されます。詳細は、次の情報を参照してください: 供給時間のみに基づく計画入庫日の設定 (ページ 18)

供給時間のみに基づく計画入庫日の設定

購買オーダーラインが入力されたが、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで品目のデータが指定されていない場合は、品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの供給時間のみを使用して計画入庫日が決定されます。

計画入庫日を計算するには、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションで [計算] を選択します。このセッションの [計画入庫日] フィールドに格納された計画入庫日が LN に表示されます。

供給時間の単位に応じて、次のように計算されます。

- 時間の場合、会社カレンダーに従って1日に利用可能なすべての時間が考慮されます。
- 日の場合、会社カレンダーに従って対象の日に利用できる時間が少しでもあれば、その日が丸1日として考慮されます。

計画入庫日は、会社カレンダーに従って次のように決定されます。

オーダー日付 + 供給時間

それぞれの値は、次のセッションで指定できます。

- オーダー日付: 購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションの [オーダー日付] フィールド
- 供給時間: 品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの [供給時間] フィールド

会社カレンダーは、次の項目に基づいて検索されます。

- 購買の利用性タイプ
- カレンダーの開始日と終了日
- 購買の利用性タイプは、購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションで指定できます。
- 会社カレンダーの開始日の前と会社カレンダーの終了日の後には、1週間の労働時間が使用されます。

例 1 - 日数単位の供給時間

供給時間 (日): 2

オーダー日付: 3 月 12 日金曜日 11:00:00

購買の利用性タイプの会社カレンダーでは、開始時間が 8:00:00、終了時間が 16:00:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。

会社カレンダーが考慮されながら、供給時間が 3 月 12 日金曜日 11:00:00 に加算されます。3 月 12 日金曜日は、カレンダーに従うと 5 時間残っています。供給時間は日で示されるため、3 月 12 日金曜日は丸 1 日として考慮されます。このため、供給時間の 1 日は次の週に残されます。3 月 15 日月曜日に利用可能時間があるため、この日が丸 1 日として考慮されます。そして、最後の利用可能時間が計画入庫日とみなされます。このため、計画入庫日は 3 月 15 日月曜日 16:00:00 になります。

例 2 - 時間単位の供給時間

供給時間 (時間): 16

オーダー日付: 3 月 12 日金曜日 11:00:00

購買の利用性タイプの実際のカレンダーでは、開始時間が 8:00:00、終了時間が 16:00:00、毎週月曜日から金曜日が利用可能です。

会社カレンダーが考慮されながら、供給時間が 3 月 12 日金曜日 11:00:00 に加算されます。3 月 12 日金曜日は、カレンダーに従うと 5 時間残っています。供給時間は時間で示されるため、1 日に利用可能なすべての時間が考慮されます。このため、5 時間が金曜日に計画され、11 時間が次の週に残されます。月曜日には 8 時間利用可能なため、3 時間が火曜日に残されます。この結果、計画入庫日は 3 月 16 日火曜日 11:00:00 になります。

ソーシング

ソーシング

ソーシングは、同一品目を納品する複数の取引先へオーダを割り当てる方法です。発注先には、優先順位とソーシング率を設定することができます。

複数の取引先がある品目にオーダを割り当てる場合、次の手順が実行されます。

1. 優先度が最も高い取引先が検索されます。この取引先は、オーダを受領します。
2. 同じ優先順位の取引先が複数ある場合は、ソーシング率が参照されます。その後、オーダがそのソーシング率に従って割り当てられます。

いずれの場合も、取引先のオーダ数量制限が考慮されます。

注意

優先順位、ソーシング率、およびオーダ数量制限は品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで定義できます。詳細は、次の情報を参照してください: 優先順位の使用 (ページ 20) および ソーシング率を使用するには (ページ 20)

優先順位の使用

優先順位機能は、同じ品目を納入する各取引先に一定の評価を与えるために使用します。特定の品目をオーダすると、このオーダは最も優先順位の高い (最も小さい数値の) 取引先に割り当てられます。

注意

特定の優先順位が付与された有効な取引先が見つかった場合、それより優先順位の低い取引先の検索は行われません。

優先順位の低い取引先の検索を続けるのは、次の 2 つの理由からです。

- 取引先が供給日に有効でない
- 取引先のソーシング率が 0% である

優先順位は同じであるが、最小または最大オーダ数量が設定された取引先が存在する場合は、これらの数量も考慮されます。たとえば、特定の取引先の最小オーダ数量が割当済のオーダ数量よりも多いと、この取引先は品目を納入できません。

ソーシング率に基づいて取引先にオーダ数量を割り当てる方法の例は、ソーシング率を使用するには (ページ 20) を参照してください。

ソーシング率を使用するには

ソーシング率の機能は、複数の購買取引先にオーダを配分するために使用します。これは、次のような取引先が複数のある場合のみ重要です。

- 同じ品目を納入する発注先
- 対象品目を納入する優先順位が同じ発注先

この場合、オーダ数量は、取引先に割り当てられているソーシングルールに従って分配されます。

多くの場合、取引先には最小または最大オーダー数量が割り当てられています。この場合、LN でこれらの数量が考慮されます。結果は、数量制限がない場合と異なることがあります。

ソーシング率に従うと、取引先の最大オーダー数量が割当品目数量よりも少ない場合があります。この場合、残りの数量はソーシング率に従って他の取引先に割り当てられます。

一方、割当品目数量よりも発注先の最小オーダー数量が多い場合があります。この場合、この取引先にオーダーは発注されません。すべての品目は、ソーシング率に従って他の取引先へ分配されます。

注意

ソーシング率のスケールを 100 にすることはできません。ソーシング率は分配の目的のみに使用されるためです。

例

次の例では、各取引先が特定の品目の納入について同じ優先順位を持ちます。

-	ソーシング率、例 1	ソーシング率、例 2
発注先 1	50%	50%
発注先 2	30%	40%
発注先 3	20%	40%
合計	100%	130%

所要量は 1000 品目であり、LN によって以下の計算が実行されます。これらの計算によって、品目は複数の取引先にオーダーされます。各例は、オーダー数量制限が考慮される場合と考慮されない場合で計算されています。

例 1

-	計算	品目 *	数量 **	計算	品目 ***
S1	$.50 \times 1000$	500	400 (最大)	-	400
S2	$.30 \times 1000$	300	400 (最大)	$(30 \div 50) \times 600$	360
S3	0.20×1000	200	300 (最大)	$(20 \div 50) \times 600$	240

例 2

-	計算	品目 *	数量 **	計算	品目 ***
S1	$(50 \div 130) \times 1000$	385	400 (最小)	-	000
S2	$(40 \div 130) \times 1000$	308	500 (最大)	$(40 \div 80) \times 1000$	500
S3	$(40 \div 130) \times 1000$	308	500 (最大)	$(40 \div 80) \times 1000$	500

凡例

* 発注先にオーダする品目の数量

** 発注先の最大または最小数量

*** オーダ数量制限がある場合に発注先にオーダする品目の数量

製造元の品目

製造元の品目の購買

会社が、構成要素を製造していない購買取引先に構成要素を発注する場合があります。このような中間購買取引先は、同等の構成要素 (オリジナル品目の仕様に適合した品目) を別の製造元から提供します。

次の機能は、製造元の品目を指定、承認、および使用するために利用可能です。

- 製造元製品番号 (MPN) 品目機能

- 複数製造元品目機能

重要

- 前のバージョンの LN で複数製造元品目機能を使用していなかった場合、現在のバージョンで複数製造元品目を設定することはできません。MPN 品目機能は最も広範囲な優先される機能であるため、製造元の品目を購入するには、MPN 機能を使用する必要があります。
- 前のバージョンの LN ですでに複数製造元品目機能を使用していた場合、複数製造元品目として定義するのか、それとも MPN 品目として定義するのかを品目ごとに選択できます。

MPN 品目

MPN 品目機能を使用するには、次のチェックボックスをオンにします。

- 導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000)
[製造元製品番号導入済]
- 品目 - 購買 (tdipu0101m000)
[MPN 品目]

詳細は、次の情報を参照してください: MPN 品目の設定および使用 (ページ 23)

複数製造元品目

複数製造元品目機能には、次の制限が適用されます。

- 複数製造元品目は、購買オーダーおよび購買要求でのみ使用できます。これらの品目を購買契約、購買スケジュール、および見積依頼で使用することはできません。
- 発効日が現在の日付より前の場合、マスターデータを変更することはできません。

複数製造元機能を使用するには、品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの [複数製造元品目] チェックボックスをオンにします。

詳細は、次の情報を参照してください: 複数製造元品目の設定と使用 (ページ 26)

注意

複数製造元マスターデータを、品目の MPN マスターデータに変換することはできません。詳細は、次の情報を参照してください: 複数製造元品目の MPN 品目への変換 (ページ 27)

MPN 品目の設定および使用

MPN 品目の設定

製造元製品番号 (MPN) を設定するには、次の操作を実行します。

1. 導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [製造元製品番号導入済] チェックボックスをオンにします。
2. 購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [MPN ごとの複数品目] チェックボックスをオンまたはオフにします。
3. 品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの [MPN 品目] チェックボックスをオンにします。

4. 購買元の取引先 (tccom4120s000) セッションの [品目参照] フィールドを [MPN] に設定します。
5. 製造元 (tcpcs0160m000) セッションで、製造元に関する情報を入力し、製造元に状況を割り当てます。
6. 製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションで、製造元製品番号 (MPN) を指定し、MPN を製造元にリンクします。購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [MPN ごとの複数品目] チェックボックスがオンの場合は、製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションも使用して、品目を MPN と製造元の組合せにリンクします。
7. 購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [MPN ごとの複数品目] チェックボックスがオンの場合は、MPN 別品目 (tdipu0149m000) セッションを使用して、品目を MPN と製造元の組合せにリンクします。
8. 取引先がすべての MPN は納入できない場合、品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションで取引先より納入可能な品目の製造元製品番号 (MPN) を定義します。このセッションを使用すると、優先 MPN を品目および取引先にリンクすることもできます。品目および取引先別 MPN のインポート (tdipu0248m000) セッションから、品目のすべての MPN を選択した取引先にリンクできます。ただし、品目および取引先の組合せの MPN が指定されていない場合、取引先は品目のすべての MPN を納入できます。

注意

MPN 詳細の一括更新 (tdipu0245m000) セッションを使用して、MPN の状況および有効期間を一括更新できます。

MPN 品目の使用

調達では、次のビジネスオブジェクトで MPN 品目を使用できます。

- 購買要求
- 見積依頼 (RFQ)
- 購買契約
- 購買オーダー
- 購買スケジュール

デフォルトロジック

次の一般的なデフォルトロジックがビジネスオブジェクトの MPN 機能に適用されます。

- 関連セッションの [参照品目] フィールドからズームすることで製造元製品番号 (MPN) を選択する場合、[品目]、[製造元]、および [優先製造元製品番号] のデフォルト値は製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションまたは MPN 別品目 (tdipu0149m000) セッションから自動的に取得されます。
- [参照品目] フィールドを指定せずに、[品目] フィールドに MPN 品目を入力した場合、[優先製造元製品番号] と [製造元] のデフォルト値は品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションから取得されます。
- MPN セット の生成は、品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションで利用可能な日付に基づいています。

購買要求

購買要求ライン (tdpur2502m000) セッションで [購買元取引先] が指定されている場合、その取引先が品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションで MPN の納入を許可されているかどうかチェックされます。

要求をオーダーに変換すると、MPN の状況は [承認済] になる必要があります。[優先製造元製品番号] が購買オーダーにコピーされ、購買オーダーにリンクされる MPN セット が生成されます。

要求はいつでも見積依頼に変換できます。

見積依頼 (RFQ)

取引先を見積依頼にリンクすると、見積依頼ライン (tdpur1502m000) セッションの [優先製造元製品番号] が見積依頼回答 (tdpur1506m000) セッションの [優先 MPN] フィールドにコピーされます。ただし、見積依頼ラインの優先 MPN が取引先に対して許可されない場合、取引先を見積依頼にリンクすることはできません。そのため、別の取引先を選択するか、または見積依頼ライン (tdpur1502m000) セッションで [優先製造元製品番号] を変更する必要があります。

見積依頼を購買オーダーまたは契約に変換するときに MPN の状況が [承認済] であると、[優先製造元製品番号] が購買オーダーまたは購買契約にコピーされ、購買オーダーの MPN セット が生成されます。品目が MPN 品目であるが、見積依頼に入力されている MPN がない場合、MPN と製造元のデフォルトは品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションから取得されます。

購買契約

取引先は代替 MPN を提供できますが、常にオリジナルの契約価格に反することになります。

購買オーダーが納入契約から生成される場合、MPN がデフォルトとして使用されます。ただし、購買契約が購買オーダーにリンクされている場合は、デフォルトは適用されません。

購買オーダー

MPN 品目のある購買オーダーラインが保存されると、MPN セット が購買オーダーライン (詳細) に自動的にリンクされます。[MPN セット] ボタンをクリックすると、購買オーダーライン MPN セット (tdpur4601m100) セッションが開始され、購買オーダーライン (詳細) にリンクされた MPN セットを表示およびメンテナンスできます。

購買オーダーラインで [優先製造元製品番号] を変更し、この MPN が MPN セットに含まれていない場合は、この MPN を品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションに追加するか、さらに、品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションでそれを優先 MPN にするかどうか質問されます。

優先 MPN が購買オーダーライン MPN セット (tdpur4601m100) セッションで変更または削除された場合、購買オーダーライン (詳細) の優先 MPN も変更または削除されます。購買オーダーラインの入庫が実行されると、MPN セットをメンテナンスすることはできません。

入庫 (whinh3512m000) セッションまたは購買入庫 (tdpur4106m000) セッションで品目を入庫するとき、これらの入庫セッションに表示される実際の MPN が、購買オーダーラインにリンクされている MPN セット に属している必要があります。

購買オーダーラインの入庫が実行されると、実際の MPN は購買実際入庫履歴 (tdpur4556m000) セッションに転送されます。

購買スケジュール

MPN は定期的に変更されるため、スケジュールヘッダに製造元製品番号 (MPN) を指定することはできません。スケジュールされた品目はスケジュールヘッダに表示されますが、MPN はスケジュールラインに指定する必要があります。

MPN 品目のある購買オーダーラインが保存されると MPN セット が購買スケジュールラインに自動的にリンクされます。[MPN セット] ボタンをクリックすると、購買スケジュールライン MPN セット (tdpur3611m100) セッションが開始され、購買スケジュールラインにリンクされた MPN セットを表示およびメンテナンスできます。

優先 MPN が購買スケジュールライン MPN セット (tdpur3611m100) セッションで変更または削除された場合、購買スケジュールラインの優先 MPN も変更または削除されます。購買スケジュールラインの入庫が実行されると、MPN セットをメンテナンスすることはできません。

入庫 (whinh3512m000) セッションまたは購買スケジュール - 入庫 (tdpur3115m200) セッションで品目を入庫するとき、これらの入庫セッションに表示される実際の MPN が、購買スケジュールラインにリンクされている MPN セット に属している必要があります。

購買スケジュールラインの入庫が確認されると、実際の MPN は購買実際入庫履歴 (tdpur4556m000) セッションに転送されます。

注意

購買スケジュールラインにリンクされた MPN セット の [優先製造元製品番号]、[製造元]、および内容が事前に一致していないと、購買発行ライン詳細 (tdpur3522m000) セッションの同じ購買発行ライン詳細でスケジュールラインを クラスタ化 できません。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買スケジュールラインのクラスタ化

複数製造元品目の設定と使用

複数製造元品目の設定

複数製造元品目を設定するには

1. 品目 (tcibd0501m000) セッションで、品目のデフォルト製造元を指定します。品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの [複数製造元品目] チェックボックスがオフの場合、この製造元が、品目 - 購買取引先の組合せの唯一有効な製造元です。
2. 品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの設定は次のとおりです。
 - [複数製造元品目] チェックボックスをオンにします。
 - 必要な場合は、[変更オーダー別発効日] チェックボックスをオンにします。
 - 必要な場合は、[複数変更オーダー] チェックボックスをオンにします。
 - [複数製造元品目チェック] フィールドで、製造元の有効性 (状況) をチェックするセッションを選択します。
3. 製造元 (tcmcs0160m000) セッションで、製造元に関する情報を入力し、製造元に状況を割り当てます。
4. 品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションで、品目 - 製造元の組合せを指定します。セッションの目的: この品目の供給が承認されているさまざまな製造元を指定します。データ管理を使用しない場合は、このセッションで品目 - 製造元の組合せの発効日と有効期限を入力できるほか、品目 - 製造元の組合せを承認できます。データ管理を使用する場合、変更管理で変更オーダーを作成して品目 - 製造元の組合せの有効性を変更するか、変更オーダー (dmchm0150m005) セッションで品目 - 製造元の組合せを承認する必要があります。

5. 品目 - 製造元および取引先 (tdipu0135m000) セッションでは、品目に関して、製造元がどの購買取引先から納入できるかを指定します。承認済の品目 - 製造元の組合せを指定するか、品目 - 製造元の組合せについて承認済の購買取引先を選択することのみが可能です。

注意

- 製造元から直接品目を調達する場合、製造元を購買元取引先としても定義する必要があります。
- 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションでは、品目 - 購買取引先の組合せに優先製造元を入力できます。

複数製造元品目の使用

購買要求

購買要求ライン (tdpur2502m000) セッションで複数製造元品目を指定するとき、製造元には品目 (tcibd0501m000) セッションで指定した製造元からデフォルト値が取得されます。品目 - 製造元の組合せは、承認済または未承認のいずれかに設定できます。ブロックされている製造元は使用できません。ただし、購買要求ライン (tdpur2502m000) セッションの [製造元] フィールドから品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションにズームすれば、承認済または未承認の品目 - 製造元の組合せのリストから別の製造元コードを選択できます。要求をオーダに変換する前に、製造元の有効性がチェックされます。

購買オーダ

購買オーダライン (tdpur4101m000) セッションで複数製造元品目を指定するとき、製造元には品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで指定した製造元からデフォルト値が取得されます。この [製造元] フィールドが空の場合、品目 (tcibd0501m000) セッションに設定されている製造元がデフォルトになります。オーダラインで使用できるのは、承認済の品目 - 製造元の組合せのみです。ただし、購買オーダライン (tdpur4101m000) セッションの [製造元] フィールドから品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションにズームすれば、承認済の品目 - 製造元の組合せのリストから別の製造元コードを選択できます。

注意

倉庫管理の入庫ライン (whinh3112s000) セッションで品目を入庫するとき、[製造元] の有効性が オーダ日付 でチェックされます。製造元が入庫日では有効ではないがオーダ日付では有効である場合、商品を入庫することができます。品目の承認済の製造元をマニュアルで指定することもできます。

複数製造元品目の MPN 品目への変換

製造元品目のオーダに複数製造元品目機能を使用しているが、代わりに製造元製品番号品目機能を使用したい場合は、品目の複数製造元マスターデータを MPN マスターデータに変換できます。

このデータは次のように変換できます。

- 品目製造元を製造元製品番号に変換
- 品目製造元取引先を、取引先ごとに MPN に変換

注意

複数製造元マスターデータには有効性および状況情報が含まれていますが、MPN マスターデータには MPN の有効性データしか含まれていないため、マスターデータを常に一貫して変換できるわけではありません。このため、複数製造元品目用に設定されたマスターデータが、新しい MPN マスターデータに変換できるほど単純かどうかを判断する必要があります。

変換は、次の場合に最もうまくいきます。

- 品目製造元が現在の日付けで有効な場合
- 品目製造元と品目製造元取引先の有効期間の発効日と有効期限が同じ場合

品目および取引先別 MPN のインポート (tdipu0248m000) セッションで、品目製造元を MPN にコピーし、次に取引先を MPN にリンクだけするように選択することもできます。

マスターデータの変換

品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで、オンになっている品目の [複数製造元品目] チェックボックスをオフにし、代わりに [MPN 品目] チェックボックスをオンにした場合、変換処理がトリガされます。

品目製造元を製造元製品番号にコピーすることしかできないのか、それとも取引先ごとに品目製造元取引先を MPN にコピーすることもできるのかは、設定の数によります。

品目製造元を製造元製品番号にコピー

品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで、[複数製造元品目チェック] フィールドが [品目 - 製造元] になっている場合、「品目製造元から製造元製品番号に変換しますか?」という質問が表示されます。

品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで [複数製造元品目チェック] フィールドが [品目 - 製造元および取引先] になっている場合、次のチェックボックスがあるダイアログボックスが表示されます。

- 品目製造元を MPN に変換
- 品目製造元取引先を MPN 別取引先に変換

「品目製造元から製造元製品番号に変換しますか?」という質問に「はい」をクリックするか、ダイアログボックスの [品目製造元を MPN に変換] チェックボックスをオンにした場合、品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションの品目製造元が MPN 別品目 (tdipu0149m000) セッションおよび製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションの MPN に変換されます。

品目製造元取引先を取引先ごとに MPN にコピー

品目製造元取引先を取引先ごとに MPN にコピーするには、品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで [複数製造元品目チェック] フィールドが [品目 - 製造元および取引先] になっている必要があります。

品目を MPN 品目に変更した後に表示されるダイアログボックスで [品目製造元取引先を MPN 別取引先に変換] チェックボックスをオンにした場合、品目 - 製造元および取引先 (tdipu0135m000) セッションの品目製造元取引先が取引先ごとに品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションの MPN に変換されます。

変換ルール

マスタデータを変更するときは、多数のルールが適用されます。

品目 - 製造元

一般的なルール

品目製造元を製造元製品番号に変換するときは、次のルールが適用されます。

- まず現在の日付で有効な品目製造元が変換されます (例 1 を参照)。
- 現在の日付で有効な品目製造元がない場合、将来有効になる品目製造元が変換されます (例 2 を参照)。

品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションでの選択ルール

- MPN 品目になる [製造元品目] フィールドに入力する必要があります。
- 購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [MPN ごとの複数品目] チェックボックスがオフで、[製造元品目] が複数回出現する場合は、最初の品目だけが製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションにコピーされます。
- 購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションで [MPN ごとの複数品目] チェックボックスがオフで、[製造元品目] が複数回出現する場合は、すべての品目がMPN 別品目 (tdipu0149m000) セッションにコピーされます。
- [製造元品目] には、マルチバイト文字を含めることができません。
- 品目製造元の [有効期限] は、現在の日付より後になります。

変換される品目製造元の状況は、いずれでもかまいません。

品目製造元取引先

一般的なルール

品目製造元取引先を MPN 別取引先に変換するときは、次のルールが適用されます。

- 現在の日付で有効な品目製造元が変換される場合、品目製造元取引先についても現在の日付で有効なものが変換されます (例 1 を参照)。
- 将来有効になる品目製造元が変換される場合は、品目製造元の有効期間内に収まる品目製造元取引先のみを変換できます (例 2 を参照)。

品目 - 製造元および取引先 (tdipu0135m000) セッションでの選択ルール

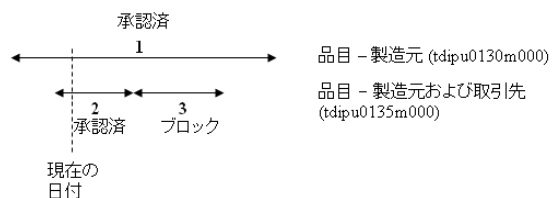
1. まず [購買元取引先] と [出荷元取引先] が同じである品目製造元取引先の組合せが存在するかどうかチェックされます。
2. そのようなレコードがない場合、[出荷元取引先] が空になっている品目製造元取引先の組合せが検索されます。
3. そのようなレコードがない場合、どのような値の [出荷元取引先] でも品目製造元取引先の組合せに使用できます。

状況が [ブロック] となっているか、品目製造元の状況より前の状況の品目製造元取引先を変換することはできません。たとえば、品目製造元が [承認済] 状況で、品目製造元取引先が [未承認] 状況の場合、品目製造元取引先をコピーすることはできません。

注意

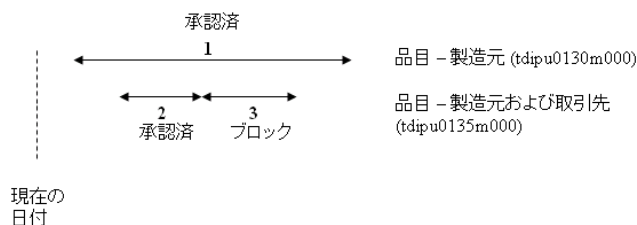
[品目製造元を MPN に変換] チェックボックスと [品目製造元取引先を MPN 別取引先に変換] チェックボックスの両方がオンでも、品目製造元取引先のいずれかをコピーできない場合、品目製造元もコピーできません。

例 1 - 現在の日付で有効な品目製造元



- 1、2、および 3 は、品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションおよび品目 - 製造元および取引先 (tdipu0135m000) セッションのレコードです。矢印は、レコードの有効期間を表しています。
- レコード 1 および 2 は、コピー時に考慮されます。現在の日付で有効なレコードが存在しますが、レコード 3 は現在の日付以降に有効にあるため使用されません。
- レコード 1 は、製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションに変換され、レコード 2 は品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションに変換されます。
- レコード 1 が [未承認] 状況の場合、レコード 1 および 2 も変換されます。

例 2 - 現在の日付で有効でない品目製造元



- 1、2、および 3 は、品目 - 製造元 (tdipu0130m000) セッションおよび品目 - 製造元および取引先 (tdipu0135m000) セッションのレコードです。矢印は、レコードの有効期間を表しています。
- 品目製造元取引先レコード (2 および 3) が、将来有効になる品目製造元 (1) の有効期間に収まる場合、すべてのレコードがコピー対象として考慮されます。
- 2 と 3 の状況はどちらも品目製造元の状況 (1) より後の状況でなければならず、状況が [ブロック] の品目製造元取引先レコードを使用することはできません。レコード 3 はブロックされているため、レコード 1 を製造元製品番号 (tdipu0145m000) セッションに変換することはできず、レコード 2 および 3 を品目および取引先別 MPN (tdipu0148m000) セッションに変換することはできません。
- 品目製造元を MPN に変換チェックボックスおよび品目製造元取引先を MPN 別取引先に変換チェックボックスの両方がオンで、コピー可能な品目製造元に有効な他の取引先がリンクされていない場合、品目製造元もコピーされません。

購買組織データ

購買手順を実行するには、事前に購買オーダータイプ (購買オーダー手順の必須ステップを定義)、購買オフィス (購買契約、購買オーダー、および購買スケジュールの作成に使用可能)、ユーザ固有のデフォルトデータを含むユーザプロファイルなどの購買組織データを定義する必要があります。

購買オーダータイプの指定

購買オーダータイプにより、オーダー手順に含まれる活動と、オーダー手順を実行する方法と順序が決定されます。購買オーダータイプが購買オーダーにリンクされると、購買オーダータイプに定義された活動に従って購買オーダーが処理されます。

購買オーダータイプおよびその活動を指定するには

1. 購買オーダータイプ (tdpur0194m000) セッションまたは購買オーダータイプ (tdpur0694m000) セッションで、購買オーダータイプを指定します。通常の購買オーダータイプに加えて、[コストオーダー]、[コレクトオーダー]、[返品オーダー]、など、特殊なオーダータイプがいくつかあります。これらのオーダーは、通常の購買オーダーと異なる方法で作成および処理することができます。
2. 購買オーダータイプ (tdpur0694m000) セッションの [活動] タブで、オーダータイプに次の項目を指定します。
 - 実行する活動 (タスク)
 - これらの活動を実行する順序
 - 活動を自動で実行するか、それともマニュアルで実行するか。つまり、購買オーダーの処理を自動化できます。詳細は、次の情報を参照してください: フレキシブルな購買オーダー処理 (ページ 32)。

ヒント

あるオーダータイプにリンクしている活動のリストが充実していて、オーダー手順の実行時に適用可能なすべての処理が含まれていることを確認してください。オーダータイプに適用できない活動は、自動的にスキップされます。購買オーダー活動 (tdpur4113m000) セッションで、購買オーダー (詳細) ラインにリンクされた実際の活動と、その活動の状況を表示できます。

購買オフィスの指定

購買オフィスは、購買オーダー、契約、スケジュール、要求、および見積依頼 (RFQ) が処理される場所を決定します。購買元取引先との取引を完了するには、購買オフィスが必要です。1つの会社にさまざまな購買オフィスを設定できます。購買オフィスの設定後、ユーザプロファイルを指定できます。

購買オフィスを指定するには

1. 部署 (tcpcs0565m000) セッションで、購買オフィスを部署として定義します。
2. 購買オフィス (tdpur0112m000) セッションで、購買オフィス固有のデータを指定します。部署がリンクされている企業単位は、購買オフィスの財務処理が転記される財務会社を示しています。購買オフィスを、購買オーダー、購買スケジュール、購買契約、スケジュール発行、コールオフ、見積依頼、または要求と組み合わせて使用する場合は、該当するシリーズフィールドを指定します。

ユーザプロファイルの指定

ユーザプロファイルは、購買従業員のデフォルト情報を設定するために使用されるため、文書をより速く処理できます。購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションでは、ユーザをロゲインコードごとに購買オフィス、オーダータイプ、倉庫にリンクできます。ユーザが購買オーダー、コールオフ、購買契約、購買要求、見積依頼、承認ルール、購買スケジュール、または購買発行を作成すると、ユーザプロファイルによりデフォルトが決定されます。これにより、購買関連の取引入力処理が高速化します。

承認ルールの指定

購買オーダー手順では、購買オーダーの承認を行うステップが必須です。購買オーダーが [承認済] 状況になる前であれば、承認ルールに従って確認できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 承認ルール

フレキシブルな購買オーダー処理

購買オーダーの処理を自動化できます。オーダータイプにリンクされている活動ごとに、実行モードを自動またはマニュアルに指定できます。

オーダー処理活動の実行は、ユーザがオーダーを承認したときに開始できます。オーダーの承認後、活動を自動化しないように定義されていない限り、すべての自動活動が連続して実行されます。自動化しない活動をマニュアルで実行すると、次の自動化された活動が連続して実行されます。

フレキシブルなオーダー処理を有効にするには、まず次のデータを指定する必要があります。

1. 購買オーダータイプと購買オーダータイプ活動
2. ユーザの (エラー) レポートの出力先となるデフォルトデバイス

購買オーダータイプおよび活動

購買オーダータイプ (tdpur0694m000) セッションで、購買オーダータイプとこれらのオーダータイプへのリンク活動を指定します。[自動] チェックボックスをオンまたはオフにすることにより、どの活動を自動的に実行し、どの活動をマニュアルで実行するかを指定する必要があります。

必須活動

購買オーダータイプ - 活動 (tdpur0560m000) セッションでオーダータイプを作成すると、購買オーダータイプ - 活動 (tdpur0560m000) セッションの [活動] フィールドで、そのオーダータイプに次の事前定義の必須活動が自動的にリンクされます。

- 外注の供給オーダーの生成 (tdpur4216m000) (この活動は、外注オーダータイプの場合にのみ利用可能および必須になります)
- 倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000)
- 購買入庫 (tdpur4106m000)
- 納入情報を含む販売/サービスオーダーの更新 (tdpur4222m000) (この活動は、直送オーダータイプの場合にのみ利用可能および必須になります)
- 納入済購買オーダーの処理 (tdpur4223m000)

注意

- 委託支払オーダータイプの場合、倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000) と購買入庫 (tdpur4106m000) の活動はリンクされません。
- 直送オーダータイプの場合、倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000) の活動はリンクされません。

倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000) および購買入庫 (tdpur4106m000) の活動はいずれも必須活動としてオーダータイプにリンクできますが、オーダー手順では倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000) の活動または購買入庫 (tdpur4106m000) の活動のいずれかが実行されます。購買オーダーに対して両方の活動を実行することはできません。これは、(管理) コストまたはサービス品目を持つ購買オーダーに適用されます。品目 (tcibd0501m000) セッションで [品目タイプ] が [原価] または [サービス] に設定されている品目が購買オーダーにあり、その品目について品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスがオンの場合、購買オーダーが倉庫管理に発行されます。[倉庫に発行] チェックボックスがオフの場合は、購買入庫 (tdpur4106m000) セッションで購買オーダーの入庫をマニュアルでメンテナンスする必要があります。

オプション活動

フレキシブルなオーダー処理手順を設定できるように、必須活動に加えて次のオプション活動も [活動] フィールドにリンクされますが、これらは購買オーダータイプ - 活動 (tdpur0560m000) セッションで削除できます。

- 購買オーダーの出力 (tdpur4401m000)
- 輸送オーダーの生成 (tdpur4220m000)
- クレームの出力 (tdpur4420m000)
- 返品ノートの出力 (tdpur4411m000)
- 購買請求書の出力 (tdpur4404m000)

重要

あるオーダタイプにリンクしている活動のリストが、オーダ手順の実行時に適用可能なすべての処理を十分に含んでいることを確認する必要があります。ある活動が該当のオーダタイプに適用されない場合、その活動は自動的にスキップまたは削除されます。

購買オーダライン (詳細) にリンクされた実際の活動と、活動の状況は、次のセッションで表示できます。

- 購買オーダ活動 (tdpur4113m000)
- 購買オーダライン状況 (tdpur4534m000)
- 購買オーダ入力ワークベンチ (tdpur4601m200)

デフォルトデバイス

購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションでユーザにレポートを出力するデフォルトのデバイスを指定します。

購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションでユーザプロファイルを挿入すると、ユーザ別デフォルトデバイス (tdpur0140m000) セッションで次の出力セッションが自動的に挿入されます。

- 見積依頼の出力 (tdpur1401m000)
- 見積依頼督促状の出力 (tdpur1402m000)
- 不成立入札者へのレターの出力 (tdpur1410m000)
- 購買契約確認の出力 (tdpur3405m000)
- 購買契約終了レターの出力 (tdpur3406m000)
- 購買オーダの出力 (tdpur4401m000)
- 返品ノートの出力 (tdpur4411m000)
- クレームの出力 (tdpur4420m000)

出力セッションごとに、ユーザ別デフォルトデバイス (tdpur0140m000) セッションでの出力に使用されるデバイスを定義できます。このセッションは、購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションの適切なメニューにある [ユーザ別デフォルトデバイス] をクリックすると開始できます。ユーザ別デフォルトデバイス (tdpur0140m000) セッションの [デバイス] のデフォルトには、購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションの [デバイス] の値が設定されますが、ユーザ別デフォルトデバイス (tdpur0140m000) セッションで上書きできます。

外部文書を出力するデバイスの検索は次の順序で行われます。

1. ユーザ別デフォルトデバイス (tdpur0140m000) セッション
2. 購買オーダタイプ - 活動 (tdpur0560m000) セッション
3. デバイスが見つからない場合、ポップアップ画面からデバイスを選択する必要があります。

内部文書を出力するデバイスの検索は次の順序で行われます。

1. 購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッション
2. 購買オーダタイプ - 活動 (tdpur0560m000) セッション
3. デバイスが見つからない場合、ポップアップ画面からデバイスを選択する必要があります。

注意

- エラーレポートを出力する場合、購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションの[デバイス]フィールドに入力されたデバイスが常に使用されます。デバイスが入力されていない場合、ポップアップ画面からデバイスを選択する必要があります。
- 自動で実行される活動の場合、処理レポートは出力されません。

購買オーダー状況とフレキシブルな購買オーダー処理

フレキシブルな購買オーダー処理は、購買オーダーが [承認済] 状況になると開始されます。

購買オーダーは、次の方法で承認できます。

- 購買オーダーの承認 (tdpur4210m100) セッションを実行し、特定の範囲の購買オーダーを承認する
- 購買オーダーを選択し、購買オーダー (tdpur4100m000) セッションまたは購買オーダー (tdpur4100m900) セッションの適切なメニューにある [承認] をクリックする

購買オーダーライン (詳細) の変更

承認済購入オーダーのライン (詳細) が変更されると、オーダーヘッダ状況が [修正済] に変更されます。変更された購買オーダーラインは、この時点で、オーダー活動の自動実行から除外されます。購買オーダーを再承認する必要があります。

- 承認済の購買オーダーラインが、ライン詳細を持つ [合計] に変更される場合、[合計] ラインとライン詳細は承認済のままです。これは、新しいライン詳細が承認済購買オーダーラインのコピーであるためです。
- すべてのライン詳細が承認されると、[合計] ラインも承認されます。1 つでもライン詳細の承認が取り消されると、[合計] ラインの承認も取り消されます。これは、ライン詳細とバックオーダーラインに適用されます。
- ライン詳細がバックオーダーラインであり、そのバックオーダーラインの[オーダー数量]が見込購買バックオーダー (tdpur4101m700) セッションで表示される [見込バックオーダー数量] を超過していない場合、自動的にそのバックオーダーラインが承認されます。オーダー数量が見込バックオーダー数量を超過しているか、バックオーダーラインが変更される場合、バックオーダーラインをマニュアルで承認する必要があります。

例

オーダータイプ連番	活動	自動
1	購買オーダーの出力 (tdpur4401m000)	あり
2	倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000)	あり
4	納入済購買オーダーの処理 (tdpur4223m000)	なし

購買オーダーの出力 (tdpur4401m000) は自動の活動であるため、購買オーダーは承認されると即座に出力されます。次に、倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000) の活動が自動実行されます。ただし、購買オーダーは納入済購買オーダーの処理 (tdpur4223m000) セッションでマニュアルで処理する必要があります。

承認ルール

購買オーダーの状況が [承認済] になる前であれば、承認ルールに従って確認できます。このルールによって、購買オーダーを承認するときの基準となる条件を指定できます。

承認ルールを使用するには、次のステップを実行します。

1. 承認ルールの番号グループを購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [自動承認ルールの番号グループ] フィールドで指定します。
2. 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションで、[自動承認ルールの基準] フィールドを受入または例外として指定します。
3. 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [承認ルール必須] フィールドで、購買オーダーを承認する前に承認ルールのチェックが必須かどうか指定します。
4. 承認ルール (tdpur0191m000) セッションで承認ルールを指定します。
5. 購買オーダーを承認ルールに従って確認してから購買オーダー状況を [承認済] に変えるには、購買オーダーの承認 (tdpur4210m100) セッションで [承認ルールを適用] チェックボックスをオンにします。

デフォルトの購買オフィス

購買伝票の入力時、デフォルトの購買オフィスが表示されます。伝票のタイプに応じて、正しい購買オフィスの取得のために専用のステップが実行されます。

マニュアルで作成した購買オーダーとプロジェクトで生成された購買オーダー

購買オフィスの取得には、次のロジックが使用されます。

1. 購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッション

2. 企業単位 (tceem0130m000) セッションの [デフォルト購買オフィス] チェックボックスをオンにしてデフォルトの購買オフィスを企業単位にリンクしている場合は、倉庫の企業単位から取得される
3. 購買元の取引先 (tccom4120s000) セッション
4. マニュアルで購買オフィスを入力する

注意

デフォルトの購買オフィスはマニュアルで変更できます。

自動的に生成された購買オーダー

購買オフィスの取得には、次のロジックが使用されます。

1. 購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの [発生元] フィールドの値が [要求]、[見積依頼]、または [契約] の場合は、発生元が提供する購買オフィスから取得される
2. 企業単位 (tceem0130m000) セッションの [デフォルト購買オフィス] チェックボックスをオンにしてデフォルトの購買オフィスを企業単位にリンクしている場合は、倉庫の企業単位から取得される。購買オーダーが直送販売オーダーに生成される場合、デフォルトの購買オフィスは販売オーダーの販売オフィスにリンクされた企業単位から取得される
3. 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッション
4. 購買元の取引先 (tccom4120s000) セッション
5. 品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッション
6. 購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッション

購買要求

デフォルトの購買オフィスは、購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッションから取得されます。ただし、この購買オフィスはマニュアルで変更できます。購買要求 (tdpur2501m000) セッションの [購買オフィス] フィールドは空のままにすることもできます。このフィールドを空のままにすると、自動的に生成された購買オーダーのロジックに従って購買オフィスが取得されます。

見積依頼 (RFQ)

購買オフィスの取得には、次のロジックが使用されます。

1. 購買ユーザプロファイル (tdpur0143m000) セッション
2. マニュアルで購買オフィスを入力する

注意

デフォルトの購買オフィスはマニュアルで変更できます。

レート換算基準

調達のレート換算基準

レート換算基準を使用して為替レートを決定するために使用する日付を指定できます。外国通貨の金額は、有効な為替レートに基づいて自国通貨に換算されます。

会社の通貨システムでは、金額の計算や登録方法を定義します。会社 (tceemm1170m000) セッションの [通貨システム] フィールドで定義できます。

次の利用可能な通貨システムがあります。

- 単一通貨
- 独立通貨
- 依存通貨

通貨システムに基づいて、調達で次のレート換算基準を指定できます。

通貨システム:	単一通貨
レート換算基準:	[伝票日付] [予定入出金日] [マニュアル入力] [固定] [在庫日]
通貨システム:	独立通貨
レート換算基準:	[伝票日付] [予定入出金日] [マニュアル入力] [固定ハード] [固定ローカル] [固定ローカルとハード] [在庫日]
通貨システム:	依存通貨
レート換算基準:	[伝票日付] [予定入出金日] [マニュアル入力] [固定] [在庫日]

各レート換算基準の機能の詳細は、レート換算基準 (ページ 40)を参照してください。

為替レート換算基準

標準通貨システムで使用できるのは、[伝票日付] および [マニュアル入力] です。

- 伝票日付
その伝票が作成された日時において有効なレートが、自動的に使用されます。[伝票日付] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。このレートはマニュアルで変更できます。
レートは、請求書が転記された時点で、請求によって更新されます。
- マニュアル入力
このレートはマニュアルで入力できます。デフォルトでは、伝票が作成された日時に有効なレートを使用します。[マニュアル入力] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
- 納期
商品がまだ納入されていない場合、オーダー日に有効なレートが使用されます。ただし、このオーダー日が過去の日付の場合は、現在の日付に有効なレートが使用されます。
商品が納入されている場合は、実際納期に有効なレートを使用します。
[納期] レート換算基準は、販売オーダー、サービスオーダー、および販売請求書にのみ適用されます。このレートをマニュアルで変更することはできません。
- 入庫日
その商品の入庫が予定されている日時において有効なレートが使用されます。[入庫日] レート換算基準は、購買オーダーおよび購買請求書にのみ適用されます。このレートをマニュアルで変更することはできません。
- 予定入出金日
その販売請求書または購買請求書の予定支払日時において有効なレートが自動的に使用されます。

予定入出金日 = 予定納期 ÷ 入庫日 + 支払期間

支払期間は、支払条件 (tcms0113s000) セッションで指定されます。[予定入出金日] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。このレートをマニュアルで変更することはできません。

レートは、請求書が転記された時点で、請求によって更新されます。

- 固定
このレート換算基準は、依存通貨システムまたは単一通貨システムでのみ使用できます。
[固定] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨と参照通貨間の換算レートをマニュアルで入力した場合、そのレートは固定レートとなります。マニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。
- 固定ハード
このレート換算基準は、独立通貨システムでのみ使用できます。[固定ハード] レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨とレポート通貨間の換算レートをマニュアルで入力した場合、そのレートは固定レートとなります。現地通貨レートは、実際の伝票の伝票日付に基づいています。
取引通貨とレポート通貨間の換算レートをマニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。

- 固定ローカル
このレート換算基準は、独立通貨システムでのみ使用できます。[固定ローカル]レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨と現地通貨間のレートをマニュアルで入力した場合は、レートが固定されます。その他のレートは、実際の伝票の伝票日付に基づいています。
現地通貨レートをマニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。
- 固定ローカルとハード
このレート換算基準は、独立通貨システムでのみ使用できます。[固定ローカルとハード]レート換算基準は、すべてのタイプの取引に適用されます。
取引通貨と自国通貨間の換算レートをマニュアルで入力した場合、そのレートは固定レートとなります。現地通貨レートは、実際の伝票の伝票日付に基づいています。
取引通貨と自国通貨間の換算レートをマニュアルで入力しなかった場合、レートは固定レートにはなりません。したがって、伝票が作成された日時において有効なレートが自動的に適用されます。

一般購買データ

購買手順を実行するには、事前に、購買要求手順で使用する承認者リスト、オーダ変更を追跡し変更理由を判断するためのデータ、追加コストセットなどの一般購買データを指定する必要があります。

追加コストセットの指定

追加コストは、最終品目の記録後に追加コスト (品目) としてオーダに配置できます。複数の追加コスト品目は、1 つのコストセットにまとめて 1 つのオーダに割り当てることができます。これらのコストセットを購買オーダに自動的に適用できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買オーダの追加コスト (ページ 44)

承認者リストの設定

購買要求を購買オーダまたは見積依頼 (RFQ) に変換するには、まず承認者リストに記載されている承認者によって承認される必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください: 購買要求承認プロセス

オーダ変更の追跡および変更理由の判断に使用するデータの指定

オーダ処理の過程で会社の要求が変化することがあるため、購買オーダは動的な伝票です。オーダ変更、およびその変更が発生した理由を追跡するための変更コードと確認コードを指定できます。この機能は、特に EDI を使用して機能する設計になっていますが、EDI 機能のない会社でもこれらのコードを使用して変更を記録することができます。

変更コードを使用すると、履歴目的で追跡されるオーダ変更に関する情報をメンテナンスできます。確認コードを使用すると、購買取引先から送信された変更に関する情報をマニュアルで記録できます。購買オーダ確認は、購買取引先が購買者に購買オーダの受取を確認するために送付するメッセージです。通常これは、購買取引先によるオーダの受入も意味します。

変更のメンテナンスおよび追跡を行うには:

1. 変更理由 (tdpur0197m000) セッションを使用して、変更理由コードを指定します。このコードを、変更済オーダまたはオーダ確認に割り当てて、変更を行った理由を明確にすることができます。この情報は、履歴レポートのために追跡できます。

2. 変更タイプ (tdpur0198m000) セッションを使用して、オーダーラインの変更や追加、ヘッダデータの変更など、販売オーダーやオーダー確認の変更タイプを指定します。変更タイプは、変更がオーダーに加えられた後、購買オーダーに割り当てられます。
3. 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションを使用して、さまざまなデフォルトの変更コードおよび変更タイプを指定します。変更があった場合、これらのデフォルトは購買オーダーラインに設定されます。
4. 購買確認 (tdpur0154m000) セッションを使用して、購買オーダー確認とコードの割当先 ([ヘッダ]、[ライン]、または [任意]) を指定します。確認コードには、購買確認文書に表示される情報のグループが含まれます。このコードは、購買オーダーの変更理由を示す場合があります。

購買オーダーの追加コスト

原価品目を使用して輸送、処理、管理費用などの金額を定義します。これらの原価をオーダーに追加すれば、顧客に請求する金額または購買元取引先から請求される金額を正確にオーダーに反映できます。追加コストは、最終品目を記録した後に追加コスト (品目) としてオーダーに配置できます。複数の追加コスト品目をコストセットにまとめて、1つのオーダーに割り当てることができます。これらのコストセットは、自動的に購買オーダーに適用されます。

追加コスト品目の請求の指定

品目の追加コストを購買価格リストと購買元取引先に割り当てるには、割り当てた後に、これらのコストを購買オーダーに追加します。

ステップ 1: 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400)

購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションで、次のフィールドを指定します。

- [追加コストセットの先頭位置番号]
追加コストのある購買オーダーラインの先頭位置番号を指定します。
- [追加コストの (再) 計算]
追加コストをオーダーの承認時に計算し、オーダーの修正時に再計算するかどうかを指定します。
 - [なし]
追加コストが (再) 計算されません。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションでマニュアルでメンテナンスできます。
 - [対話式]
追加コストの (再) 計算が必要かどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。(再) 計算する場合は、マニュアルで指定した追加コストが失われる可能性があります。
 - [自動]
購買オーダーの承認または修正時に追加コストが自動的に (再) 計算されます。

ステップ 2: 購買追加コストセット (tdpur0624m000)

購買追加コストセット (tdpur0624m000) セッションのヘッダは購買追加コストセット (tdpur0124m000) セッションを参照します。セッションの目的: 追加コストをコストセットによってグループ化し、そのコストセットに使用する通貨を定義します。コストセットは、輸送や処理

など、オーダに生じる追加請求をグループ化するために使用します。コストセットを購買元取引先や価格リストにリンクすれば、自動的に適切な請求がオーダに追加されます。

購買追加コストセット (tdpur0624m000) セッションのラインは購買追加コストセット - 品目 (tdpur0128m000) セッションを参照します。セッションの目的: コストセットに属する原価品目を定義します。コストセットライン上で、いつ追加コストを適用するのか、およびどのようにこれらの追加コストを取得または計算するのかを定義できます。このセッションで指定できるコストセットラインには、オーダ金額が特定の値よりも低い場合にオーダに追加される管理費や、購買済商品の合計重量が特定の値を超過する場合にオーダに追加される輸送コストなどがあります。

ステップ 3: 価格リスト / 取引先別購買コストセット (tdpur0127m000)

デフォルトのコストセットを価格リストまたは購買元取引先にリンクするには、価格リスト / 取引先別購買コストセット (tdpur0127m000) セッションを使用します。また、このセッションでは、コストセットラインを購買オーダに自動的に追加するか、対話式で追加するかを指示できます。

ステップ 4: 価格帳ライン (tdpcg0131m000)

適用する実際請求を定義するには、価格設定を使用します。価格帳ライン (tdpcg0131m000) セッションで、追加コスト品目の請求を定義します。価格帳と原価品目を選択したら、価格境界を定義する必要があります。コストセットの価格構造には柔軟性があります。このため、独自の価格構造にすることも、いくつかの取引先と同じ価格構造にすることもできます。

備考

原価はオーダ合計に基づいて追加されるため、ユーザが購買オーダライン (tdpur4101m000) セッションで購買オーダを終了したときに追加されます。また、オーダラインの [価格] フィールドは単位あたりの価格です。追加コスト品目の場合、このフィールドは空のままになります。適用される金額は、購買オーダラインの [オーダ金額] フィールドに表示されます。

オーダの変更/確認

ある会社の購買オーダは、別の会社の販売オーダにリンクされます。したがって、購買オーダの変更は対応する販売オーダに影響することがあります。また逆に、販売オーダの変更が対応する購買オーダに影響することがあります。変更オーダ情報の処理を指定できます。

変更オーダパラメータ

次の表に、変更オーダ情報の処理を決定するパラメータを示します。

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)	購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400)
[変更コードのメッセージ]	[変更コードのメッセージ]
[変更コード必須]	[変更コード必須]
[変更オーダー連番の自動割当]	[変更オーダー連番の自動割当]
[追加オーダーラインのデフォルト変更理由コード]	[追加オーダーラインのデフォルト変更理由コード]
[追加オーダーラインのデフォルト変更タイプ]	[追加オーダーラインのデフォルト変更タイプ]
[変更オーダーラインのデフォルト変更理由コード]	[変更オーダーラインのデフォルト変更理由コード]
[変更オーダーラインのデフォルト変更タイプ]	[変更オーダーラインのデフォルト変更タイプ]
[取消オーダーラインのデフォルト変更理由コード]	[取消オーダーラインのデフォルト変更理由コード]
[取消オーダーラインのデフォルト変更タイプ]	[取消オーダーラインのデフォルト変更タイプ]

オーダーの変更および確認

ステップ 1: 購買オーダー (ライン) の変更

販売先取引先が購買オーダーを変更すると、購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの次のフィールドが入力可能になります。

- [変更理由]
- [変更タイプ]
- [変更オーダー連番]

販売先取引先が購買オーダーラインを変更すると、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションの次のフィールドが入力可能になります。

- [ライン変更理由]
- [ライン変更タイプ]
- [変更オーダー連番]

ステップ 2: 変更を通知

販売先取引先は、購買オーダー (ライン) の変更について購買元取引先に通知する必要があります。販売先取引先は、電話、EDI メッセージ、メールなどの方法で購買元取引先に通知することができます。

ステップ 3: 変更を実装

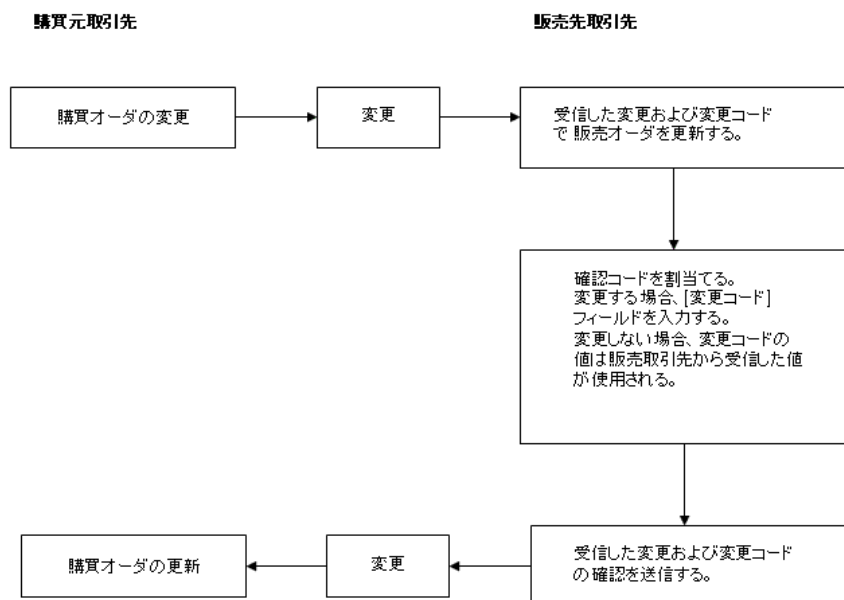
購買元取引先が変更に合意した場合、対応する販売オーダー (ライン) に同じ変更を行う必要があります。変更を承認するために、購買元取引先は次のフィールドを指定する必要があります。

- オーダライン変更の場合、販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [確認] フィールド
- オーダライン変更の場合、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [確認] フィールド

購買元取引先は、要求された変更にも変更を加えることができます。この場合、購買元取引先は変更を上書きできます。購買元取引先は、販売オーダー (ライン) を更新した後、(変更の) 確認を販売先取引先に送付します。

購買元取引先が販売オーダー (ライン) を変更する場合、上記手順の販売先取引先を購買元取引先に置き換え、購買オーダー (tdpur4100m000) セッションおよび購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションを販売オーダー (tdsls4100m000) セッションおよび販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションに置き換えて読むことができます。

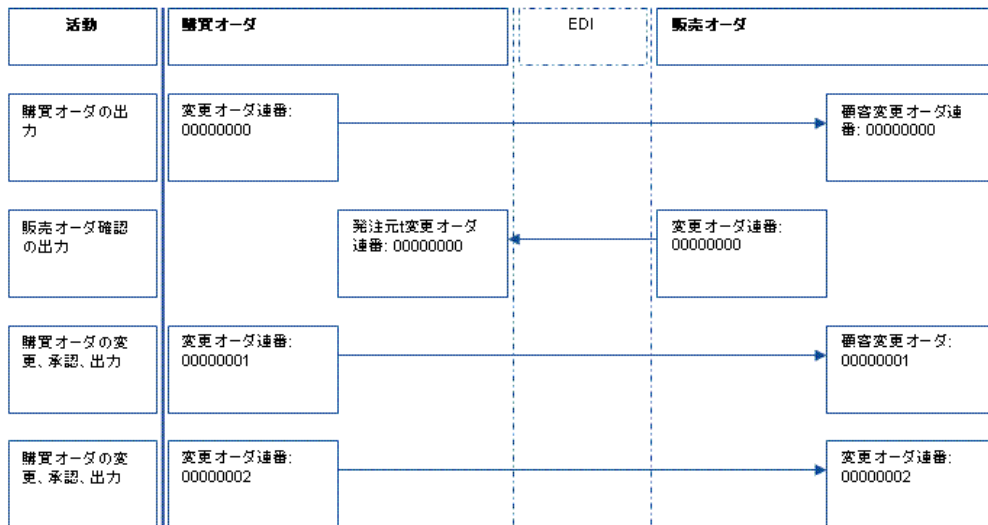
例



電子データ交換 (EDI) を使用して変更を通知する場合、次の取引先から受領した最新の変更オーダー連番を表示できます。

- 購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの [発注先変更オーダー連番] フィールドに指定されている購買元取引先
- 販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [顧客変更オーダー連番] フィールドに指定されている販売先取引先

例



変更の出力

変更した購買オーダーを再出力できます。また、変更部分のみを出力することも可能です。購買元の取引先 (tccom4120s000) セッションの [例外別購買オーダーの出力] チェックボックスにより、出力される変更が決まります。

また、変更した販売オーダーを再出力し、その変更部分のみを出力することもできます。販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [例外別の確認] チェックボックスにより、出力される変更が決まります。

EDI と新規ラインまたは変更の出力

EDIを使用してオーダーをすでに出力していた場合、次の制限が適用されます。オーダーセッションまたはオーダーラインセッションの [変更タイプ] フィールドを指定している場合、新規オーダーラインまたはオーダー (ライン) の変更部分のみを出力できます。

注意

購買オーダーライン状況 (tdpur4534m000) セッションまたは販売オーダーライン状況 (tdsls4534s000) セッションでオーダーがすでに出力されているかをチェックできます。新規オーダーラインや変更を出力する場合、いつでもオーダーセッションまたはオーダーラインセッションに戻って [変更タイプ] フィールドを指定できます。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

カレンダー

カレンダー作業時間のリストを構築するために使用される定義の組合せ。カレンダーは、カレンダーコードと 利用性タイプ の組合せにより識別されます。

レート換算基準

換算レートを決定するための日付を指定する方法

決定した換算レートに基づいて、構成プロセスで外国通貨の総額が自国通貨に換算されます。

活動

購買/販売オーダータイプについて実行しなくてはならない手順。活動は、購買/販売オーダータイプについて実行しなくてはならないセッションまたはマニュアルアクションを意味します。

クラスタ

1 つの購買発行に複数のスケジュールラインを送るために、ラインをグループ化すること

クラスタでは、まず発行パターンに基づいて次のスケジュール発行日が決定されます。次に、セグメントセットから取得されたセグメント時間単位とセグメント期間に基づいてスケジュールラインがクラスタ化されます。

注意

クラスタは、非参照スケジュールにのみ適用されます。

購買オーダー

特定の条件に基づいて、どの品目が購買元取引先から納入されるかを示す契約

購買オーダーには次のものが含まれます。

- 一般的なオーダーデータ、購買元取引先データ、支払条件、および受渡条件を記載したヘッダ
- 実際に納入される品目についての詳しい情報を記載した、1つまたは複数のオーダーライン

購買スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。購買スケジュールは、頻繁に納入される長期の購買をサポートし、通常、購買契約によって支援されます。品目、購買元取引先、出荷元取引先、購買オフィス、および倉庫が同じである要求はすべて、1つのスケジュールに保存されます。

優先順位

発注先について特定の評価を追加できるようにするオプション。優先順位が定義された場合、品目/発注先の組合せは優先順位の降順にソートされます。

利用性タイプ

資源が利用可能であるアクティビティのタイプを表すコード。利用性タイプにより、単一のカレンダーに複数の作業時間セットを定義できます。

たとえば、製造には月曜日から金曜日まで利用可能で、サービスアクティビティには土曜日が利用可能であるワークセンタの場合、製造に1つとサービスアクティビティに1つの合計2つの利用性タイプを定義し、そのワークセンタのカレンダーにこの2つの利用性タイプをリンクさせることができます。

ソーシングルール

発注先優先順位と特定発注先への割当率の組合せに基づいて需要を割り当てるルールが記載された計画システム

追加コスト

追加の梱包や保険などの追加サービスに対する費用。出荷、積荷、または輸送オーダークラスタの輸送費に追加コストが付加されます。追加コストは出荷ラインまたは輸送オーダークラスタラインに課され、顧客に請求できます。これは、取引先との間で結ばれている協定によって決まります。

週労働時間

利用可能および利用不可能な時間を定義する、週の7日間

経路計画

プール地点となる積込住所および荷降住所のネットワーク。通常、経路計画は、マルチモーダル輸送に該当する経路に対して定義されます。経路計画は、1つまたは複数のプロセスから構成されます。指定した輸送分類および輸送手段グループに応じて、経路の一部であるプロセスごとに異なる処理が可能です。

EDI メッセージ

組織とメッセージから成る電子ドキュメント (たとえば、電子オーダー承認)

受信メッセージまたは発信メッセージは、EDI 通信セッションで呼び出された特定のライブラリで処理されます (たとえば、販売管理 (SLS)、販売請求 (SLI)、買掛金 (ACP)、現預金管理 (CMG)、購買管理 (PUR)、在庫処理 (INH)、電子データ交換 (EDI) モジュール)。

電子データ交換 (EDI)

標準フォーマットの標準ビジネス文書のコンピュータ間転送。内部 EDI は、同じ内部会社ネットワーク (マルチサイトまたは複数会社とも呼ばれる) 上での会社間のデータ転送を意味します。外部 EDI は、自社と外部取引先間のデータ転送を意味します。

運送業者

輸送サービスを提供する組織。積荷構築、輸送オーダークラスタ、輸送コスト計算、および請求に運送業者を使用するには、共通情報で運送業者を運送業者と購買元取引先の両方として定義する必要があります。運送業者は運送業者とも呼ばれます。

同義語: ロジスティックサービスプロバイダ (LSP)

購買オーダータイプ

オーダータイプにより、オーダー手順の一部であるセッション、そしてこの手順が実行される方法および順序が決まります。

購買オフィス

組織に必要な資材とサービスの購買を担当する組織内の部署。購買オフィスには番号グループを割り当てます。

承認ルール

購買元取引先、購買担当、計画者、発効日、有効期限、金額といったデータ要素の組合せ。この組合せに基づいて購買オーダーが承認されます。承認ルールは、受入ルールまたは例外ルールを基準にします。

購買要求

商品およびサービスを取得するための承認を得るためのユーザによる要求

購買要求には、標準および非標準の資材、原価、またはサービス要件が含まれます。購買要求の情報には、ヘッダセクションの名前、部署、保管場所、購買オフィス、承認者が含まれます。要求ライン詳細には、品目、発注先、数量、価格および数量が含まれます。

購買要求は、次のいずれかに変換できます。

- 購買オーダー
- 見積依頼 (RFQ)

購買契約

購買契約を使用して、特定商品の納入に関する購買元取引先との特定合意を登録します。

契約は次のもので構成されます。

- 一般取引先データが記載され、オプションで関連条件合意が記載された購買契約ヘッダ
- (集中) 価格合意、ロジスティック合意条件、および数量情報が含まれる 1 つ以上の購買契約ライン。品目または価格グループに適用されます。
- ロジスティック合意条件および数量情報が含まれる購買契約ライン詳細。マルチサイト法人の特定サイト (倉庫) の品目または価格グループに適用されます。この契約ライン詳細があるのは、法人購買契約の場合だけです。

納入契約

タイムフェーズ納入のリストであり、契約から取得されて購買オーダーに変換されます。納入契約は実際のスケジュールではありませんが、購買オーダーを遅れずに生成するためのスケジュールソリューションです。

例

契約ライン	納入契約	購買オーダー (PO)
100 個	2000/12/01 20 pcs	PO1 2000/12/01 20 pcs
-	2000/02/08 25 pcs	PO2 2000/02/08 25 pcs
-	2000/12/15 40 pcs	PO3 2000/12/15 40 pcs
-	2000/12/22 15 pcs	PO4 2000/12/22 15 pcs

販売業者評価

特定の基準による、発注先の分類。これらの基準は、納入 (時間どおり、十分な数量など) および他の要素を基準にすることができます。

独立通貨システム

企業構造モデル内で互いに関係づけられているすべての財務会社とロジスティック会社が、共通する 2 種類または 3 種類の自国通貨を使用する通貨システム。すべての取引はそれぞれの自国通貨で登録されます。

為替レートは、取引通貨とすべての自国通貨との間に定義されます。取引金額は、取引通貨から自国通貨に直接換算されます。

次を参照してください: 標準通貨システム

単一通貨システム

会社が 1 つの自国通貨だけを使用する通貨システム

次を参照してください: 標準通貨システム

輸送手段グループ

以下のように輸送手段をグループ化するために使用される分類

- バン
- トラック
- コンテナ船
- 貨物航空機

グループごとに、以下のようなプロパティが定義されています。

- 平均速度
- 積込能力

輸送で定義される各輸送手段は、輸送手段グループに属します。たとえば、輸送手段グループ: バン、輸送手段: ライセンス番号 XX333444 のバンとなります。

サービスレベル

特急納入や12時間以内の納入など、商品の輸送に関して運送業者が提供するサービスのレベル。通常、サービスレベルは、輸送サービスの価格を計算するために運送業者が使用する輸送レートと関係があります。

標準経路

標準経路は、固定スケジュール、鉄道サービス、ボートサービスに応じて納入/積荷住所に立ち寄るトラックなど、特定の頻度で回る固定経路です。通常、標準経路による輸送は非固定経路の場合よりもコストを抑えることができます。たとえば、アムステルダムからロッテルダムを経由してアントワープまで 1 日に一度運行する経路などを定義できます。

追加コストセット

複数の追加コストラインおよびシナリオの保存が可能になるコード。コストセットは品目、取引先、または価格リストにリンクできます。またこれらを経由してオーダーや出荷にもリンクできます。

ロジスティックサービスプロバイダ (LSP)

次を参照してください: 運送業者 (ページ 51)

ソーシング率

オーダーが発注先の間でどのように分配されるかを計算するために使用する割合

製造元製品番号

製造元の品目コードの一意の識別番号。これは、品目オーダー処理および識別処理で使用されます。

原価品目

追加原価をオーダに転記するために使用する管理品目。追加原価は、会計費用、決済料金、設計原価および運送原価などです。

原価品目は製造では使用されないため、在庫品目になることはありません。また、原価品目は費用品目とも呼ばれます。

為替レート

通貨を別の通貨に交換できる金額。つまり、特定の時間にある通貨で別の通貨を購入する金額。

依存通貨システム

単一会社内で複数の自国通貨を使用できる通貨システム。財務会社は、大半のエンティティに対しては使用する通貨を現地通貨に決めます。すべての取引はそれぞれの自国通貨で登録されます。

外国通貨と参照通貨間、および参照通貨と自国通貨間には、為替レートが設定されます。取引金額はまず参照通貨に換算され、次にその参照通貨による金額が自国通貨に換算されます。

次を参照してください: 標準通貨システム

経路

倉庫から出荷先取引先または出荷元取引先の倉庫への移動ラインとその逆の移動ライン。同一地域または都合のよい経路にあるグループ取引先への経路を使用します。

住所を経路で整理することにより、経路でソートしたピッキングリストと出荷ノートを出力することができます。

標準通貨システム

参照通貨によるトライアングレーションを適用することなく、外貨取引が取引通貨から現地通貨へ直接変換される通貨システム。デフォルトでは、レポート通貨は取引通貨からレポート通貨に直接変換されますが、さらに現地通貨からレポート通貨を変換することもできます。

見積依頼 (RFQ)

(いくつかの) 製品の納入について、入札者に条件 (価格、値引、納入時間、および支払条件など) の提出を要求するために使用する購買伝票

見積依頼は複数の入札者に送付することができます。入札者は、指定品目の見積依頼回答を提出できます。

回答の記録、交渉、およびさまざまな入札者から提示された価格と値引の比較を行うことができます。

受け入れられた回答は、契約、オーダ、価格帳にコピーできます。

受入ルール

承認ルールが受入ルールを基準にする場合、有効なルールを満たす購買オーダを自動的に承認します。受入を基準に承認ルールを定義する場合は、データ要素のどの組合せについて購買オーダを承認させるかを定義します。

追加コストライン

追加コストとしてオーダまたは出荷にリンクできる原価品目を含みます。追加コストラインの例として、オーダ金額が一定の値より少ない場合にオーダ原価に追加される管理費や、販売/購買商品の総重量が一定の値を超える場合にオーダに追加される輸送費があります。

承認済発注先リスト

特定品目の納入が承認済である購買元取引先のリスト

購買担当

関係する購買元取引先の連絡先となる、自社の従業員。購買担当は購買エージェントとも呼ばれます。

変更オーダ連番

購買オーダまたは販売オーダに対する変更が発生した場合に割り当てられる番号

例外ルール

承認ルールが例外ルールを基準にする場合、有効なルールを満たさない購買オーダは自動的に承認されます。例外を基準に承認ルールを定義する場合は、データ要素のどの組合せについて購買オーダを承認しないようにするかを定義します。

完全供給時間

予測されていない品目を取得するために必要な合計時間。この時間を使用して、購買部品の累計リードタイムを含む、品目の完全累計オーダリードタイムが計算されます。

例

品目 A について、発注先から「供給時間」が 50 日であると伝えられました。これは実際には短縮されたリードタイムであり、この品目について発注先に 3 年予測が送付された場合のみ可能です。必要な追加数量が発生し、この数量が予測に含まれていない場合は、発注先に 300 日の「完全供給時間」が必要となります。

生成日

特定のスケジュールが (再) 生成される日付

内部処理時間

ニーズの認識と購買オーダの発行との間の所要時間。内部処理時間には、文書の準備とソーシングが含まれます。

MPN セット

購買オーダラインまたは購買スケジュールラインに属する製造元製品番号 (MPN) のセット

オーダ日付

オーダがマニュアルで指定された、または自動的に生成された日付

安全時間

リードタイムの変動から商品の納入を保護するために通常のリードタイムに追加できる時間。これによって、オーダの実際の必要日より前にオーダが完了できるようにします。

供給時間

予測されている品目を取得するために必要な合計時間。この時間を使用して品目のオーダーリードタイムが計算されます。品目のオーダーリードタイムに基づいて、会社は関与を決定し、能力計画やオーダ管理を実行します。

例

品目 A について、発注先から「供給時間」が 50 日であると伝えられました。これは実際には短縮されたリードタイムであり、この品目について発注先に 3 年予測が送付された場合のみ可能です。必要な追加数量が発生し、この数量が予測に含まれていない場合は、発注先に 300 日の「完全供給時間」が必要となります。

ユーザプロファイル (購買)

ユーザによって記録されるデフォルトデータで、購買要求、見積依頼、購買契約、購買オーダ、購買スケジュール、購買発行、コールオフ、および承認ルールの作成に影響します。このデータは、オーダ入力方法、オーダ入力時のデフォルト値などを決定します。

索引

- 適切なメニュー, 49
 - カレンダー, 49
 - レート換算基準, 38, 40, 49
 - 活動, 31, 49
 - クラスタ, 49
 - オーダー
 - 変更/確認, 45
 - 購買オーダー, 50
 - フレキシブルな処理, 32
 - 追加コスト, 44
 - 変更/確認, 45
 - ソーシング, 20, 20, 20
 - 購買品目
 - デフォルト, 9
 - 購買データの作成, 9
 - 取引先データの定義, 10
 - 定義, 9
 - 購買スケジュール, 50
 - 優先順位, 20, 20, 50
 - 使用, 20
 - 利用性タイプ, 50
 - 調達, 7
 - ソーシングルール, 50
 - 販売オーダー, 45
 - 変更/確認, 45
 - 追加コスト, 44, 50
 - 変更理由, 43
 - 週労働時間, 50
 - 経路計画, 50
 - ユーザプロファイル
 - 指定, 32
 - 変更コード, 43
 - 変更タイプ, 43
 - 確認コード, 43
 - 通貨システム, 38
 - 承認者リスト
 - 設定, 43
 - EDI メッセージ, 51
 - 電子データ交換 (EDI), 51
 - 運送業者, 51
 - 購買品目リードタイム
 - 計算, 11
 - 購買マスタデータ
 - 一般購買データ, 43
 - 購買組織データ, 31
 - 購買品目データ, 9
 - 購買組織データ, 31
 - 購買オーダータイプ, 51
 - 活動, 31
 - 指定, 31
 - 購買オフィス, 36, 51
 - 指定, 32
 - 承認ルール, 51
 - 指定, 32
 - 購買要求, 51
 - 購買契約, 52
 - 納入契約, 52
 - 販売業者評価, 52
 - 独立通貨システム, 52
 - 単一通貨システム, 53
 - 輸送手段グループ, 53
 - サービスレベル, 53
 - 標準経路, 53
 - 追加コストセット, 53
 - 定義, 43
 - ロジスティックサービスプロバイダ (LSP), 51
 - 購買品目データ, 9
 - 計画入庫日
 - 供給時間に基づく設定, 18
 - 決定, 14
 - ソーシング率, 20, 20, 53
 - 使用, 20
 - 製造元の品目, 23, 26
 - 購買, 22
 - MPN 品目
 - 使用, 23
 - 設定, 23
 - 製造元製品番号, 23, 53
 - 複数製造元品目
 - 使用, 26
 - 設定, 26
 - 変換, 27
 - フレキシブルな購買オーダー処理, 32
 - 一般購買データ, 43
-

原価品目, 54
為替レート, 54
依存通貨システム, 54
経路, 54
標準通貨システム, 54
見積依頼 (RFQ), 54
受入ルール, 54
追加コストライン, 55
承認済発注先リスト, 55
購買担当, 55
変更オーダー連番, 55
例外ルール, 55
完全供給時間, 55
生成日, 55
内部処理時間, 55
MPN セット, 55
オーダー日付, 55
安全時間, 56
供給時間, 56
ユーザプロファイル (購買), 56
